

26 番 江原議員

江原議員／議長より、登壇の許可をいただきましたので、26 番、日本共産党、江原一雄です。

ただいまから一般質問をはじめさせていただきます。

まず最初に教育長におたずねします。

教育行政について。

今議会でも、1 番目、2 番目の議員の中からも、教育問題に関する質問がございました。

12 月定例会の 2 日の初日。

教育長から、教育に関する報告がありました。

その一部ですが、ICT 教育関連として、10 月 25 日に武内中学校、10 月 29 日に山内東小学校で、タブレット端末活用授業参観を行い、11 月 21 日には武内小学校で反転授業の授業参観を行っています。

教育監を中心にして、来年度からの全小学校のタブレット端末導入に向けて推進しているという報告がありました。

本議会で、この間、教育長はこの議会で、6 月議会、9 月議会、12 月議会と教育に関する報告をしていただいておりますが、反転授業に関しては、先ほどもうしましたように、12 月議会ではじめて報告がありました。

ところが、タブレット配布の発表は、5 月 9 日。

新聞で、報道で私は知りました。

そして、8 月 26 日、9 月議会の定例議会の前の、全小中学校に無線 LAN を配置する。

その予算が補正に組まれました。

総額約 7000 万円。

そして 9 月議会が終わりまして、9 月 26 日、教育監を任命し、その記者発表が行われ、反転授業についての報道がされたのを 9 月 27 日の新聞で知りました。

市長は今、「あらあら」というヤジを飛ばしておられますが、紛れもなく異常ではないでしょうか。

そこで、教育長にお尋ねをします。

これまで教育委員会としてどのようなプロセスを議論され、教育委員会として、この武雄市内の武雄の教育に関して、教育委員会としてどのように議論をし、プロセスを進めてきたのか、報告をまずお聞きしたいと思います。

よろしくお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／ICT 教育については、国、県、ともに強力にすすめる。

特に再来期につきましては、知事、教育長、県教育長ともにすすめるということで、事実、全国が注目する ICT 教育を進めておられます。

それから、ICT 教育、端末等を入れた学習の形態は、これから必ず、日本全国にすすむ形態だと思います。

これからの社会を考えたときには、そうであります。

大幅な予算を伴うので、市長部局のほうのご理解をいただかないと進まない話であることは間違いないわけです。

委員会で話しているのは、ここ数回の学力調査等や家庭状況等を見たときに、家庭学習が非常に寂しいと。

家庭学習と学校の学習がうまくつながっていない。

他の項目は良いんだけど、家庭状況についてはちょっと数値的に低いという状況で、家庭での学習と学校の学習がつけられないかとのことを協議していく中での反転授業であり、タブレット導入です。

議長／26 番 江原議員

江原議員／先ほど私、教育長にお尋ねしました。

5月9日、タブレット配布の発表。

8月26日に全小中学校に無線 LAN の配備。

9月26日に反転教育の記者発表。

武雄市教育委員会の教育委員会の定例会の議事録をアクセスして、様子を見てみますと、この反転教育、あるいは無線 LAN についての、教育監の設置問題等、なんら議題に上がっていません。

特に教育監は議題にも上がっていません。

そこで、きょうこういう形で、2日から教育監が本議会の中に席を導入されて答弁もされておられますが、私がお聞きしたいのは、教育委員会として、法に基づいて、教育行政における法律に基づいて教育委員会が設置され、その教育委員会の役割は種々、さまざまあります。

教育委員会としての役割は、教育委員会の職務権限は以下のとおりということで、十数項目あります。

特に、各校の組織編成、教育課程、学習指導、生徒指導および職業指導に関すること、さまざまな権能、職務権限が縷々されています。

その中で、武雄市教育委員会として、この ICT 活用、言われているが、教育長は9月議会の報告ではどういう報告をされているか。

9月議会での定例会議での報告内容は、電子黒板 106 台を設置いたします。

こういう9月議会では、教育に関する報告の中で、学力向上推進のために今年度も ICT 機

器を活用した教育による質が高く、わかる授業の実践を推進しています。

電子黒板を今年度 21 台新しく整備し、市立小中学校で 106 台となりました。

ICT 教育に関しての報告は、9 月議会ではこういう報告です。

ところが、その間の経緯を見てみますと、私は先ほども言いましたが、新聞報道で聞き、市長はヤジされました。

市民にとってほとんど知らない状況の元で、教育長自身が教育に関する報告をこの議会ですべていただいている、このことが最高の情報の開示であります。

ところが、平成 25 年度、武雄市の教育会の武雄市の教育の構成が示されております。

その教育の方針。

これが武雄市の教育。

平成 25 年度、武雄市教育委員会。

約 16 ページでしたかね。

失礼、11 ページに渡って、武雄市の教育、平成 25 年度の武雄市の教育委員会。

その重点事項の中の 5 ページ。

重点事項第 6、社会の進展に対応した教育の推進、ICT 教育を活用した教育の推進という欄が設けられて、そして最後の中に、情報の公開。

これも述べられております。

9 ページ。

重点事項、教育委員会の積極的な情報公開。

教育委員会の各町公民館などが行う事業の情報発信。

教育委員会会議の内容および、前年度の評価結果など、積極的に情報を公開します。

その 1、教育委員会の会議の公開、述べられております。

これが武雄市教育委員会の方針です。

これに照らし合わせて私は質問しているが、ただいま教育長からプロセスについてお聞きしましたが、平成 25 年度における教育委員会としての論議や方針について、どのようにプロセスで論議されているか。

先ほどの答弁ではわかりません。

再度、どのように推進されているかお尋ねいたします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／教育委員会として極力、情報公開に努めているのは間違いございません。

先般も、昨年度の教育委員会の外部評価についてご審議いただいたところでございます。

また公民館、学校も含め、以前と比べて、膨大な情報の発信をしています。

それから、教育委員会会議につきましても、実際にとっていただいて、公開をしてきているところでございます。

ICT 教育につきましても、昨年度、一昨年度と、電子黒板を重点的に配置してきまして、そして今回、タブレットということで、本当にこれだけの予算化をしていただいているということは、大変ありがたく思っていますし、そのことにつきましては、教育委員会でも会議に起こす会議、あるいはさまざまな場で一緒になるので、一緒に話をしながら、協議をしながらすすめているところでございます。

議長／26番 江原議員

江原議員／総論でありまして、ほとんど具体化、私が聞いていることに対しては、教育長、応えられないようですね。

ということは、この10月1日から導入されました反転教育。

来年度から、全小学校で実施しようとしている、文字どおり、授業内容が全く変わるといって受け止め方をせざるをえませんが、そうした教育方針が、ほとんど現場の先生も、父兄にとっても、また私たち、そういう議会の1人として、今進められている教育の進め方に、危惧を覚えている1人です。

私はそこで教育長に、教育の目的はなんですか。

お尋ねしたいと思います。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／大きくは、人格等々の目的があるわけではありますが、今の論議の趣旨から行きますと、ずっと言っていますが、知徳体をより高いレベルで調和させるという教育のあり方を目的としています。

議長／26番 江原議員

江原議員／教育の目的をお尋ねしましたが、教育長は、知徳体とおっしゃいました。

ただ、私が聞きたかったのは、教育長がおっしゃるかと思いましたが、それは、武雄市教育の方針について書かれております。

教育の目的は…。

はじめにという欄です。

ご承知のようですが、教育基本法には、教育の目的として教育は人格の完成をめざし、平和で民主的な国家、および社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならないと書いてあります。

そこで言われる、「教育は人格の完成を目指し」。

私はこの言葉は、日本の歴史の中で、戦前の、もちろん教育勅語ではありませんが、ある

悲惨な戦火を経て、新しい憲法のもと、教育基本法が作られました。  
ところが平成18年、ただいま申し上げました教育基本法の教育の目的として述べましたが、これは平成18年、安倍内閣第一次内閣のときに、改正をされました。  
その改正されたのが、この文言です。  
改正される前の、前教育基本法の教育の目的にはどう書かれていたでしょうか。  
ちょっと紹介したいと思います。  
前文は一緒です。

「教育は人格の完成を目指し」。

ここは一緒です。

次変わります。

「平和的な国家、および社会の形成者として真理と正義を愛し、個人の価値を勝ち取り、勤労と責任をおもんじ、自主的精神に満ちた」、ここが変わりました。

先ほど読みましたが、ここが約30行ばかり変わります。

最後の文章のところは一緒です。

勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた、心身共に健康な国民の育成を期して行われなければならない。

これは、国民の教育に対する、非常に政治の介入を許さない、行われなければならないというのは、日本国憲法の三原則、国民主権、基本的人権の尊重、恒久平和の原則を貫く上で、その教育が果たす役割が大きいからこそ、改正する前の教育基本法には、教育の目的が縷々明確に述べられておりました。

ところが7年前、今の教育基本法の教育の目的に変えられています。

しかし、前段と最後は一緒です。

「教育は人格の完成を目指し」が、紛れもなく、教育の目的であります。

武雄市教育委員会がこの路線から外れることはないでしょう。

それは国民の多くの人、そして全てのひとの教育に期待を寄せる、全ての国民の願いが込められているからではないでしょうか。

そこで、教育基本法の流れがありましたけれども、長く教育行政に携わっていただいています教育長が、この間の教育に携わられて、どのように教育行政をリードしていこうと思いなのか、認識をお聞かせいただければと思います。

よろしく申し上げます。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／就任以来、述べてきた通りですが、改めてのお尋ねであります。

先ほど、人格等々は大きな目標としてであると申しました。

質問の文脈から、知・徳・体という今の目標もあげました。

教育基本法の改正がされました。

ほかの教育関係の諸法も改善や改定がなされています。

これは国民的合意なので、合意にそって教育を行うのは、武雄市の教育長としても、同じ立場でございます。

議長／26番 江原議員

江原議員／今の武雄市行政の推進の中で、あわせて非常に教育長にお尋ねしたいのが、今、11月27日。

ある新聞の記事を目を通していて、びっくりしました。

それは、教育委員会制度改革について、地方教育審議会の教育制度分科会に指名された答申案のことについて認識をお持ちでしょうか。

この制度の問題は、いわゆる市長が市のあるいは自治体の教育方針を確定して、そしてそれを教育長が推進していくという方針案の中身ではないかと思っています。

こういうことが、今、文科省が、あるいは第二次安倍内閣のもので、そうした教育の変更が進められようとしています。

しかし、地方教育審議会の中からも、このことに関しては、大変危惧の声が寄せられているようです。

私は、今回の武雄市の動き、この1、2年の間、図書館問題、ICT教育の取り組みを見ますと、市長が教育方針を策定・立案し、教育委員会はそのあとを追認する、その取り組みが顕著ではないかと申さざるを得ません。

教育長の認識はいかかでしょうか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／いずれも、多額の経費を必要とし、改革的な観点を必要とし、そして今後の武雄市をあり方を考えた上で、大変に大きなことです。

したがって、市長さんとの話し合い、教育委員会内、事務局内で論議などを含めまして、話し合いをして、理解を得つつ、情報を共有しつつ、進めているというところでございます。

ます。

議長／26番 江原議員

江原議員／この1、2年の武雄市教育委員会の流れを見てみまして、もちろん行政側とし

ては教育方針に基づいて、その費用、予算にするのは行政の最大の仕事です。

しかし、教育方針を決めるのは教育委員会であります。

ところが、情報を共有していると教育長も申されましたが、現場である学校の責任者である校長。

その校長会が、反転教育の説明会が11月4日ではありませんか。

まして、現場で今、私は大変危惧をされ、その混乱の取り組みの状況が耳に入ってきますが、私は今の、市長自身があとで質問いたしますが、今の教育委員会のありようが、本当に子どもを思って、今の教育長の認識お聞きしましたが、大丈夫なのかなと言わざるをえませんし、そこで詰めた話ですが、教育長にお尋ねします。

5月23日、市長ブログで、私が6月議会で質問しました。

教育関係で記者会見を、きたる7月1日、日曜午後に行います。

武雄で教育長が行いますと表明されました。

このとき、6月定例議会の中で、私の質問の中で市長は、楽しく待っていてください。

ところが、翌月6月10日、他の議員の質問で、その記者発表は延期すると答弁されました。

このことを考えますと、その一連の流れを推察すると、教育長自身が武雄で記者発表なら、その中身は当然、教育長として、教育委員会として議論され、その教育方針を記者発表するのではなかったですか。

教育長、お尋ねしますが、教育関係での中身は、なんだったのでしょうか。

ご答弁をお願いします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／教育委員会の議決を必要なことと、そうでないこと、教育長に任せられていることもあるわけであります。

そういうことの内容を、任せられている内容という判断でございます。

議長／26番 江原議員

江原議員／では、教育長におたずねします。

教育監のポストについて、教育委員会で議題になって決定したのは、いつですか。

議長／古賀教育部長

古賀教育部長／教育監の採用について、教育委員会で議決する必要はございません。

議長／26番 江原議員

江原議員／各務を突っ込んだ理解はしていませんが、教育方針を決定する上で、教育課のポストは右側です。

教育長の隣です。

以前は、教育部長がお座りでした。

教育方針について、教育監というポストは、どこが決めたんでしょうか？

議長／古賀教育部長。

古賀教育部長／改めて申し上げますが、教育の方針については、先ほどからご指摘のとおり、武雄市の教育ということで、教育委員会で議決をいただいたものです。

この方針に基づいて、具体的な制作を実施するという部分では、大部分を教育長に委任されていると理解しております。

教育監の採用については、教育委員会で議決する必要はないということで、教育長の権限で行ったということでございます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／教育長の答弁に補足したいと思います。

私も答える義務がありますので、それは、あまり押しつけないほうがいいと思います。

人事については、議員ご存知のとおり、予算を伴う話です。

ですので、市長部局に予算の編成権がありますので、まずそれを議会にお出ししたというのは、それは議員さんおわかりに通りますと思います。

うちは、政策部に人事課、組織を司る総務課がありますので、そこでの調整も必要です。

したがって、今般、教育監の任命にあたっては、最終的には、教育長が決める話ですが、予算、あるいは機構、どのポストにどういう職務権限を持たせるかは、市長部局とも十分調整の上、議員にもおわかりいただいているので、重要ポストなので、武雄市全体として考えたものです。

教育の方針については、教育委員会が議決する話なので、教育監のポストも手段として、あくまでも目的は、武雄の教育をよくするところが目的。

そのための教育長も教育監もある意味手段ですので。

それについては、人事権として任されているものと視察をしておりますので、心配無用でございます。

議長／26番 江原議員

江原議員／ほとんど、教育委員会として、武雄市教育委員会の平成 25 年度の教育方針にのっとってみましても、その後の定例教育委員会の議題や、議論の、今ご報告受けました私もアクセスしてみましたが、ほとんど議論され、先の答弁にありましたように、10 月…。先の答弁で、教育委員会 10 月 21 日でしたかね。

10 月の定例議会の中で、教育監から教育委員会が報告を受けたその議事録がありますが、そういう状況です。

ですから、今回の武雄市教育委員会の反転授業の導入については、大方の部分が市長部局から導入が進められた。

市長と教育長の答弁を聞いても、その推察が感じられます。

そのことについてはあとで質問します。

私は教育長にお尋ねしますが、こうした今の武雄市教育委員会の教育の進め方、私は、今度の補正予算にもあります、全小学校生徒、先生 3060 人分、約 1 億 2000 万円のタブレット端末の配付には時期尚早と考えています。

それはなぜか。

現場の全ての子どもたちが豊かで、のびのびと教育に携わっていく、その環境が整っていないと考えるからです。

高校でタブレット端末が配付されると報道され、その議論がされています。

県の教育長は、もし個人負担 5 万円がなければ、入学を考慮する、おりてこういうことまで報道されている。

これで本当に、のびのびと生きる教育の目的、人格の完成を目指す、この文言と合わせて、私は逸脱するのではないか。

本当にすべての国民が議論をし、教育の制度を取り入れるのか、入れないのか、十分議論をして導入することが国民や市民の教育に答える道ではないでしょうか。

この教育の問題で最後に認識を教育長にお尋ねいたしますが、市長はこの導入はあくまで手段と言いました。

また、教育監が記者発表の中で、武雄市を学力日本一にする。

こういうことを記者発表されています。

私は今の武雄市が佐賀県の教育を報道等見る中で、記事は全国平均以上を目指すと言っているが、今、中学校では佐賀県は 41 位で、71.2 点九州で一番良いのは熊本県で、19 位、73.3 点です。

わずか 2 点しか違いがありません。

小学校は佐賀県は全国 27 位で平均 55.8 点、九州で一番成績がいいのはこれまた 14 位の熊本県で 56.9 点、100 点満点ではありません。

その差はわずか 1 点だけです。

このわずか 1 点、2 点を知事は学力テスト対策として、1000 万円以上の予算を組んで、秋田や福井に 1 年間、教員を派遣してノウハウを学ぼうと躍起になっています。

その秋田県は中学校では1位でも、センター試験は全国33位。

学力テストはこれほどいい加減です。

数値で表される学力向上など、教育という面から見たら、ごくわずかな側面でしかありません。

教育の目標は人格の完成です。

その子とその子らしく、人らしく育っていくこと、学ぶことが好きな子になること、こういう子に育つためには学びの楽しさを感じる授業が大切だ。

教師もそういう授業をつくらないと行けません。

学力テストの過去の問題ばかりをさせて、点数をあげる授業の中で子どもが楽しさを感じるわけがありません。

学力向上対策は、子どもから学ぶ喜びと、教師から教えることの誇りを奪うものでないでしょうか。

小学校1年生の来年4月から新1年生がランドセルをしょって、真新しい身なりをして、小学校に登校して、そして子どもたちの授業風景を想像します。

学校から送られる教科書、そして自分のノート。

そのほかに黒板があります。

私どもは、この授業で今まで、学問、学校教育、義務教育を出てきました。

今、あらたに、電子黒板が3カ所導入されている。

これに第4としてタブレット端末がある。

子どもは4つの教科書と黒板と電子黒板とタブレット端末があります。

本当に子どもたちにとっては授業風景を想像しますと、本当に落ち着いて、先生の話と、先生の顔色を見ながら、学ぶ、見るで計算が不安を覚えるのは、至極、そういう思いになられるのは、私も同感であります。

ですから、私は最後に教育長にお願いしたいのは、こうした予算があるならば、今、小学校1年、2年は35人以下学級ですね。

ところが、小学3年生クラスを35人学級にしろという流れがストップされました。

それは、今の安倍内閣になってからです。

ですから、武雄市が取り組むのは山内町3校の分校があります。

ところが、3年生で一緒になります。

そのときに35人学級だったら、40人だったら2クラスです。

もとい1クラスです。

ですから、1、2年生の時、2クラスだったのが、分校と本校が一緒になり、1クラスになる。

35人を超えます。

ですから、本当に武雄市が取り組むのは小学校3年生を35人クラスにするべきではないで

しょうか。

さらに私はこうした予算があるならば、全国にさきがけて、小学校クラス、全て 35 人学級、そして 1、2 年生は 30 人学級を導入すべき。

このことを強く求めたいですし、教育長の認識はどのようにお持ちなのか、お伺いします。

議長／浦郷教育長。

浦郷教育長／たくさんありましたので、全て答えられるかわかりませんが。

先ほど、教育監が説明した中に学びの中に学び方とありましたが、あの形はほとんどの先生がして、前の分を家庭でやりましょうというので、流れ自体に先生の抵抗はない。

そこにタブレットが入ったらということで、非常にきわめて、良い方法だと。

それはなぜか、先ほど言いましたように、家庭との繋がりを大事に考えたいということで、私からそういうことを口に発することはほとんどありませんし、平均を追いかけるのは意味ないということは、承知をしています。

家庭、地域、皆さん等協力して、市民総ぐるみというのを、方針の 5 項目目に入れているのは、そういう意味でございます。

そういうことをしないと、点数に反映しないと、前から思っています。

それから、これからの時代に本当に必要だというのは、皆さんご理解いただいていると思います。

そのの、方法として極力補正して、配付ができるということは、非常に子どもたちにとっても、非常に大きな期待であります。

電子黒板の扱いについても、武雄市の先生方非常に頑張っておられて、現場でも本当によく使っていただいています。

これだけのお金をかけるので、また、有効に活用をしていきたいと、一緒になってしていきたいというふうに思っております。

また学級の人数につきましては、私の一存でできることではございません。

要望は要望として毎年しつつ、改善をはかりたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／やはり、21 億円の損害賠償請求を議員でやられたりとか、教育部長とのオフレコの話の話を議会でばらされたりとか、私どもの職員の写真を出して、議会で出してうつ病一歩寸前に追い込むという、議員の力量、ある意味私は評価をしています。

全く、私たちが言ってないことを言ったかのようにおっしゃるのは、やめて欲しいと思うんですよね。

例えば、TBS の「NEWS 2 3」にも出ましたが、反転授業を最初におっしゃられたのは、

その当時のシバタさんが、私のところにお見えになって、教育長、教育部長同席の中、こういうのがありますと。

私は、正直言ってその時はよくわかりませんでした。

今、武内小学校で、タブレットを3年以上前から配付しているということを見て、試行的にやってみたいということ、教育委員会から私にありましたので、これは教育委員会の権限なので、自由にやってほしいと。

学校の先生や、子どもたちに、過度の負担がかからないようにしてほしいと、教育長をはじめ、教育委員会の皆さんには申し上げております。

私がしたという事実はいっさいありませんし、テレビにも出てますので、確認をしてください。

ニュース 23 に出ています。

それで、押しつけと言われたので関連で申しますと、タブレット配付は教育長も答弁しているとおおり、全小学生、中学生に、私から校長の意見も聞いて欲しいと。

全校長が、タブレットについては、山内東のみならず、自分達のところでもやりたいということが、アンケート結果としてまとまりましたので、それを踏まえ、予算措置をしたところでございます。

手元には資料は持っておりませんが、公表されていると思うが、子どもたちのアンケートについても、実際武内、山内東みたときに、非常に iPad を活用することによって、授業が楽しくなったと、学ぶことが楽しくなったということを非常に高い評価を、多くの子どもたちがしているという意味からして、私たちとしては、子どもたちの意向にも沿って、ぜひやっていきたいなということが紛れもない事実でございます。

それで、35人、30人。

35人、30人達してない学校も、山のようにあります。

否定するわけじゃないです。

自分も武雄中学校時代に、マンモスの中学校だったので、なるべくなら少ないのがいいよねと、議員と同じであります。ただし、今のシステムのままに、学校の先生に過度の負担がかかったままに、そのシステム、制度のままで35人、30人にしても、僕は効果があがらないと思っていますので。

例えば、反転授業とか、タブレットであつたり、教育長がさまざまに、ここでも指摘があるような授業と一緒に勧めていくような話だと、認識しておりますので。

何も否定はしておりません。

そこは、広汎な議論が保護者を巻き込んで、あるいは地域の皆さんを巻き込んで議論する必要があるだろうと、私自身は認識してますし、学力テストの公表が、議論をサポートするためのものだというふうに認識しています。

最後にしますが、もう少し事実関係を勉強された上で、ご質問されてほしいと。

それと、何度も学校の先生から問題が出てるとおっしゃっていますが、それはもう少し具

体的に言わないと、ハンコク質問になってしまうと思います。

ですので、そういう意味で、何がどう問題なのかを、例えば、黒岩議員さんとか、山口昌宏議員さんはおっしゃいます。

ここは問題だから、具体的にこうなんだ、それについてどうなのかと、われわれは議論に乗れるんですよ。

学校の先生から問題がでていると、それでまともな議論にはなりませんので。

頼杖をつけていますが、それは私が言うのもなんですが、聞かれる態度ではないと思っています。

議長／26番 江原議員

江原議員／ちゃんと聞いてますよ。

たまたま自分で。

私は教育長に、小学校のクラスの編成上、定員のことを質問しました。

その認識をお尋ねしたら、教育長は、何ら認識をおっしゃいません。

まして、市長が今までいつも、私の質問に対して、いろいろ毒やりをいれて、申されてますが、きょうも同じ事を繰り返されております。

ですから、教育長にお尋ねします。

私が質問しております、小学校のクラス編成の定員数について、認識はどうですか。

議長／江原議員、質問の趣旨が、なかなか内容が伝わっておりません。

あなた質問が、ずっと遠回しになってきているから、

的確な答弁ができないんです。

質問を慎重に行ってください。

浦郷教育長

浦郷教育長／先ほどの長い質問の中で数点、質問持ってきましたので、お答えしたところで、最後に学級編成についても、考えを述べたつもりですが、再度申します。

今、平均すれば1学級27、28名という数字がでてくると思います。

それだけ、少子化の影響が出てきているだろうと。

市内の数値を持ち合わせていませんが、大規模校を除きますと、やはり30人。

41人で2学級にわかれますので、20人くらいの学級が非常に多くなっている事実がございます。

それから、何人が良いかというのも、これまでも何回も論議が出てきたと思います。

あまり少ないと、球技もできないなど出てきます。

ただ、36人から多いところはないわけで、30～35人のところが多いという印象を受けておられるということでございます。

ですから、先ほどの学習方法としての反転授業を考えますと、多い人数の中でわからない子が出てきやすい。

そういう子をなくそうということですから、そんな効果です。

どの子にもわかるようにしていくというような、それは1つの例です。

そんな面でいろんな手立てを取りながら、私の言葉で言いますと、知徳体のより高い調和というところに求めていきたいというふうに思っております。

人数につきましては、武雄市で結論づけられるものではございませんので、そのあたりはまた。

議長／26番 江原議員

江原議員／私が質問しているのは、今、教育長が言われたように、40人学級、小学校ですね。

1、2年だと35人学級。

小学1年生が36人入学してきたら、2クラスなんですよ。

当然36を2つに割れば18人。

本当に、良い授業内容になると思います。

ほっとします。

ところが、36人を超えると、いわゆる1クラスになるんです。

今言った山内町に分校がありますから、小学校3年のときに、それが41人になったら、1クラスなんです。

39人でも1クラスですね。

41人になったら、2クラスになる。

そしたら21人と20人になる。

だから、35人学級にするべきという話です。

私はこのタブレット端末の予算があるならば、武雄市はいち早く小学校3年生まで、35人学級にし、すべての小学校に35人学級を導入し、小学1、2年生は30人学級を推進するべきと、市の教育方針についての問題定義をして、1つめの教育長に関する質問をおわります。

議長／質問の途中ですが、議事の都合上、午後1時20分まで休憩いたします。

江原議員／次の、2番目の市長の政治姿勢について、おたずねします。

最初にブログの件と人事について、おたずねします。

先の6月議会の中で、私は5月23日付けの市長ブログ、教育関係の記者会見をきたる、4月1日、午後に行います、また東京で私が、武雄で教育長が行うと、表明されてました。これを、6月10日の、私の一般質問の中で、お尋ねをしたら、まってください、楽しみにしてくださいと言われた。

ところが、6月11日の他の議員の質問では、市長は、これは記者会見を延期します、私の調整能力の不足で、不徳のいたすところとおっしゃった。

この一連の経過の中で、日程が、進んできましたが、この記者会見の中身は、今度の12月の定例議会の一般質問の中で、市長の演告の中で、言われました。

お許しいただければ、私の3期目は、私は教育に命をかける所存ですと。

聞いててですね、この問題は、どうも一連のこの間の経緯とだぶる訳ですが、この真意、中身について、どういうことを、縷々、考えておられたのか、わかれば、非常に重要でございますので、御答弁いただければと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私は、政治家として、立場を鮮明にして、こういうことをしたい、すべきであるというのは、着任7年前に、ずっと変わらぬ姿勢です。

限られた密室の場ではなくて、記者会見とか、一般質問の場とか、オープンにしているのも、私の姿勢です。

与党会派と色々な話をしました。

そのときに、そのときに、これは、あまりにも大きな話なので、もう少し色々な人達の意見を聞いたらいいと、いうさまざまなアドバイスを賜った。

これは黒岩さんとか、初秋議員にも話をして、その上で、色々な人から、色々な意見を聞くべきとありましたので、そういった中で、私としての判断は、多聞第一、色々な人の意見を聞いて、これはきわめて大切な、市にとっても、日本の教育にとっても、大切な話になりますので、それについては、言われたのは、市長の次の公約に掲げるべきだ、それくらい大きな話だなと。

それはそうだなと、ですので年度の途中の会見よりも、むしろもう少し、色々な人の話を聞いた上で、練った上で、公約で掲げたほうがいいと、それはそうだなと思って、さすが武雄市議会だと思いました。

色々な議論や、考えて、私は次の公約で、掲げていきたいと思っております。

そういった中で、今の段階でまだ詰め切れてない部分がありますので、もうすこしお待ち

いただきたいと思っています。

これを是とするか否とするかは、選挙のときに、有権者に判断を願おうと思っています。

その中でまた、いろんな話について、させていただければありがたい。

いずれにしても、日時の設定のありかたとか、先走ったなど、深く反省をしています。

それについて、4月1日を楽しみにしておられた方もいるので、そういうご期待に添えなかった部分は、私の不徳のいたすところですので、もう少し人格修行にはげんでまいりたいと、このように思います。

議長／26番 江原議員

江原議員／これからのことで、お聞きしたいと思います。

次に、先ほどの教育長にお尋ねしましたが、予算をとまなう人事のことで、教育委員会としては、教育監のポストについては、私の認識を含めると、市長が予算を9月議会に提出された、6カ月分の、360万、その他共済費いれ約400万円です。

この人選は市長がされたんですか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／もともと、ニュース23にも出ていますが、もともと、代田さんが、あつて話をしたいとありました。

この件について、私も代田前校長のことはずっと注目をしていたので、お越しいただいたら、ありがたいなと思って、その中で私とすれば、反転授業の話とか、いろいろご指導いただきました。

その中で、これから話した議論ですので、教育長に聞いてほしいんですが、これは中からの改革だけでは、しんどいと、無理だということですので、これこそ、私どもが、病院の民間委譲のときもでしたが、たとえば、蒲池 真澄理事長さんを、医療統括監に、外の力の中に取り込み、それで市民病院の民間委譲が、円滑にならしめたと、それをポストとして作って、先ほどもいったとおり、医療統括官を念頭にありましたけども、そこで考えたのは確かに私であります。

人事の話は、教育委員会の話は、単純でなくて、教育長がその中で任命するという手続きになる。

しかし、これは制度上、予算については、議会が決める話ですので、議会に提案できるのは、私しかいません。

予算編成権、統括権を持つ私しかいないので、そういう中で、最終的に議会に判断いただ

いた。

給与の関係については、議長級のポストと一緒に、校長先生のだいたいの給与にあわせたということですので、代田さんが、実際、給与に見合う仕事をしてるかどうかは、議員、議会、市民の皆さん、保護者の皆さんが判断すべきだと思います。

私は、きょうの初めての答弁を聞きましたが、その任には答えてくれるものと思っています。

そういうきっかけについては、「NEWS23」を見れば、その辺の経緯がわかると思います。実際これが、共産党の新聞とかに、いろんな書かれるかもしれませんが、たえず聞かれば、オープンにします。

そこはご心配なきように、いくら共産党新聞といっても、盗撮は良くないと思います。

そのへんもご留意をしていただければ、ありがたいと思います。

議長／26番 江原議員

江原議員／変なことを答弁しないように。

盗撮でもなんでもない。

何をおっしゃいますか。

私はちゃんと、質問して、その答弁を聞いていますが、まぎれもなくこの教育委員会に教育監のポストを作ったのは市長だと認められたわけで、私はこれは本当にゆゆしきことではないでしょうか。

教育委員会がちゃんと、権限をもったことを、先ほど、法律に基づいて、示しました。

ところが今、市長自身、市長として、紛れもなく、武雄市教育委員会にこういった、教育監ポストを作って、反転授業を推進しているのは、先ほど紹介しましたが、市長が教育方針を決めて、それを教育委員会が、設営していく。

これは本当にゆゆしきことではないかと思います。

私は、そういう意味では、教育監のポスト、位置づけにしましても、先週、議長に会派として行政視察を申し出て、鎌倉市議会、東京杉並区議会、議会議員団にお会いをして、調査をしました。

教育監の人選には問題があると、指摘せざるを得ません。

鎌倉市議会の今年3月7日の議事録です。

それを見て仰天しました。

その中では、新しい鎌倉市教育委員会の委員の選任についてという市長提案ではありますが、ここに紹介されている方が、自ら撤回を申し入れて、鎌倉市議会が了承をされているようです。

今回の教育監のポストについて人選に問題があると思います。

そこで、お尋ねします。

その間の、経緯を見ると、紛れもなく、教育長にお尋ねします。

教育委員会として、いつこの教育監のポストとこの人選について、紹介があり、決定をされたいきさつ。

われわれ、情報公開を図ると教育委員会いわれているのに、何ら議事録にも載っていません。

その辺りの報告をお願いします。

議長／古賀教育部長

古賀教育部長／教育監の対応につきましては、教育委員会の議決事項ではないので議事録には載っていません。

教育監の対応は決済を取っておりまして、9月20日付で教育長の決定がおりています。

議長／樋渡市長

樋渡市長／暗黒質問には、明瞭な答弁でお答えします。

何度も申し上げておりますが、教育委員会の事務方のポストは、予算、組織機構上の定数、あるいは格付け、いくつかの、少なくとも3つの要素が絡む。

少なくとも予算は議会の議決がないと回らないので、私から提唱して議会が議決したことです。

任命権は、教育委員会の議決事項でなく、教育長が任命する。

もちろん、統括代表権を有する私に関与しないということは、あり得ません。

予算、組織、機構、格付けは、権限ですので、そういう制度になっています。

押しつけるとかそういうのは全くありません。

これから、私どもはICTをやっていきたい。

そのなかで民間、なかんずく、ぼくはよかったと思います、鎌倉の教育長にならなくて。

本当にひろいものだと。

そういう優れた方が武雄でICT教育にご尽力いただくというのについては、ありがたく思っています。

それは、これからの教育を考えた場合、教育長、教育委員会が進めるべき話だと思っています。

われわれは予算面を中心として、精一杯バックアップする。

議会の広範なご審議をお願いをして、予算議案の場合は、議決をしていただくのが、民主主義の流れですので、そこは誤解なきようお願いいたします。

きっかけを作るのは、政治家であるわたしの一旦ですし、これを密室でやったのはありません。

今の一般質問で多くの皆さんが反応もありましたし、市長の答弁も良いとありましたので、私はその期待に十分応えてくれるだろうと思います。

議長／26番 江原議員

江原議員／部長答弁で私が訪ねた教育委員会として教育方針を、新たな教育方針を導入する上で、教育委員会でどういう議論をしたか、教育長、御答弁願います。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／数年といわず、人事関係も携わってきまして、必要以上と言われるぐらい、人事に関しては慎重に対応しています。

早く名前がでることで、来ていただく予定だった方が、来ていただけないことは避けたかった。

この点については、ほかの教育委員さんからも早く教えるべきだと。

教育監そのもの、改革の在り方とか ICT 教育等については、話が議事としてあがっていなくても、やっていますので、改革の方向については、説明し了解し、協議してきたところでは。

議長／26番 江原議員

江原議員／私は、武雄市教育委員会のこの間の経緯を思いますと、武雄市の教育の平成 25 年の教育方針と照らし合わせての今の教育長の答弁は、本当に市民にとって、また父兄にとっても、知らされたのは新聞情報だけです。

そういう意味では、まさに市民と共に教育を司る意味からも、教育委員会として、法に基づいた施行を求めるものです。

次に、時間がありませんので、図書館問題に。

昨年来、5月4日に市長が東京蔦屋書店で図書館問題を記者発表して以来、委託 CCC との業務協定書を合意したことを発表したではありませんか。

所管問題です。

そこで、2、3お聞きしますが。

8月6日付けの新聞を見て、びっくりしたんです。8月5日に、武雄市図書館に皇室の一人が、おなりになった。そのことが、新聞で報道されました。

話題の図書館とあって、宮内庁から視察要望と、新聞記事にも載っております。

その日の8月5日の市長のツイッターでは、2カ月前に、宮内庁からオファーがあり、市の図書館にすごいことだと発言発信をされています。それが、ツイッターでの市長の文言です。聞くところによりますと、宮内庁からはオファーはなかったということですが、実際は、どうだったのでしょうか。オファーは、あったのか、なかったのか。お尋ねします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まず、市がこういうところに、おなりをしてほしいということで、県を經由して、この場合は皇室の、おなりになりますので、宮内庁にお出しをするというプロセスをたどる。

今般、教育委員会の、図書館といえども施設なので、それについて、教育委員会が、国体でお呼びしたということになる。教育委員会だったと思うんですが、市の教育委員会から、県の教育委員会にジョウソウして、県の教育委員会から、宮内庁にジョウソウしていることで、間違いないですよ？

そのときのおなりについても、同じプロセスをたどっていると認識しています。

その中で、私が知ってることは知っていると言いますし、知らないときは知らないと、どっかの知事とは僕は違いますのでいいですが、教育委員会から通じているということについて、内々やってることは知りませんでした。

そういった中で、私もさまざまな、総務省等に12年いた経験があり、いろんなところからいろんな話がきます。きますので、その中の一つの、非公式の話として、お願いをしたいのは、あったのは事実です。

ただしこれが宮内庁等に情報公開請求もあっていると聞いていますが、それについて、公式に、何月何日付けに文書等が来たという事実はありません。

しかし、私のところまでさまざまなルートで、私にはいろんな話がまいります。

これに限らずまいりますので、そういった中で話があったことは事実ですし、これについて私から申し上げるのでもありません。

いずれにしても、キャッチボールの中で、いろんなところが決まる。

今回の、おなりの件も、そのうちの一環であったし、公式、非公式、いろんな話があります。議論する中で、実際、高ノ宮妃殿下のおなりが決まっていたということと、私は申し上げたいと思います。このように思っております。

ただし、これについて私が **Twitter** で書くということは、自分の影響力を考えたときに、それは思慮が足りなかったと思いますので、それについて、宮内庁の関係者には、お詫びしたい。

これからは慎重に物事を書いていきたいと思います。

議長／26番 江原議員

江原議員／この経緯を考えますと、市長はいみじくも、思慮が足りなかったとお詫びを申し上げますと言われました。

この事実は、市長が、Twitterに発信されたのは、まさに不覚なんです。

それを認められた。

私がこれと考えますと、平成25年3月22日に、佐賀県教育委員会が、武雄市の推薦文書として、平成25年3月22日に、県の教育委員会が、武雄市市立図書館・歴史資料館、および蘭学館について推薦を願い出た文書があるわけです。そこで、おなりになった。

ですから、市長からオファーがあった、いわゆる宮内庁からオファーがあったというわけじゃなくて、これは紛れもなく、宮内庁側から、そういう県の教育委員会の推薦にもとづいて、お越しいただいている。そういう意味では国政の場でも、この皇室を利用する、政治問題が巻き起こっています。

私は、この問題は、実際にありもしないオファーを、宮内庁からオファーがあったと虚偽の発言し、ブログで皇室のおなりを大々的に取り上げ、皇室におかれでは、武雄市図書館と極めて高く評価をいただいたと、書くこと自体が皇室の政治利用にあたるのではないかと指摘をする質問をしましたが、市長自身、このことを自ら思慮が足りなかったと、お詫びを申し上げます。

この教訓に基づいて、二度とそうしたことがないように、求めておきたい。

次の2点目で、図書館問題でお尋ねします。

議長／答弁を認めます。樋渡市長。

樋渡市長／私、いっさいがっさい、お詫びしたつもりなんかないですよ。

皇室に係わるものについて、私は虚偽のことを言ったつもりはないです。

公式、非公式と、物事はあるじゃないですか。その中で、公式のオファーがあったかなかったかについては、なかったと申し上げている次第です。

先ほどの私の発言が、Twitterでの発言が逸脱だというのは、私の政治的な発言の自由を封鎖する、共産党らしい質問だと思っています。

私語は慎んでください。

議長／静かに。

樋渡市長／だから、それを暗黒の質問だと言いたいんです。

平野議員、冷静になりましょう。

議長／静かにしてください、静かに。

樋渡市長／言うても聞かないですから。ですので、そういう中…平野議員、静かにしてください。

議長／静かに、答弁中ですので、静かに。市長答弁を。

樋渡市長／それ、暗黒のヤジじゃないですか。  
大人になります。

議長／市長答弁を。

樋渡市長／はい、ちょっと、大人になります。ですので、そういった中で、何を申し上げたいかという、発言すべきこと、Twitterで発言すべきことではないということで、僕はお詫びを申し上げた訳であって、いっさいがっさい、私がね、虚偽のことをやってるとか、何とかについては、一切ありませんので、それはご理解していただきたい、このように思っております。

いずれにしても、今回の場で、肝に銘じなきゃいけないのは、書いていい事と、悪い事がありということについては、自分の影響力をかんがみながら、虚心坦懐に、誠実に真摯に向き合わなければいけないことを、意を新たにしましたし、これによって、実際、宮内庁の皆さんとか、佐賀県の教育委員会の皆さんとか、市の教育委員会の皆さんにも、御迷惑、御負担をかけましたので、これについては率直に、人間としてお詫びを申し上げたい、このように思っています。

議長／26番 江原議員

江原議員／次の図書館問題の2点目です。

先の武雄市教育委員会あてに、公開質問状が提出され、その回答書があります。  
3項目にわたり、武雄市図書館を考える市民の会から、こういう回答があります。

蘭学館を改修することが決定してから、歴史資料館とともに蘭学館に配置されていた展示物、一部の活用等をのぞいて、活用案と保管する場所がなく、やむなく協議することになったとありました。

処分されたのは、どんなものが含まれているのか、御答弁求めます。

議長／古賀教育部長

古賀教育部長／図書館・歴史資料館にあった什器類については、先ほど答弁いたしました  
が、特に書架部分、机、椅子、こういったものは、小学校中学校、公民館から希望をとっ  
て、活用をしている状況です。

蘭学館の中にあつた備品類は保管等ができないものは、処分をさせていただいたと、先の  
質問状に答弁をいたしておるところです。

議長／26番 江原議員

江原議員／ですから、回答されているように、その処分された中身、種類かれこれについ  
て、回答を求めているわけです。

議長／古賀教育部長

古賀教育部長／手元に資料がありませんので、ここでお答えできない状況ですが、具体的  
なものは、お答えしていませんが、全般的には質問状にお答えしているとご理解をお願い  
します。

議長／26番 江原議員

江原議員／まさに、答えられないのではないんですか。

本当にこの私は、今、武雄蘭学館の役割は大きいと思っています。

日曜夜8時から、NHK 大河ドラマで、45分間、日本の近代の歴史の中で江戸幕末と、そ  
して、140年前の、明治維新の歴史ドラマが展開しています。

自然の役割、藩の役割、武雄班の役割が放出される。

蘭学館の役割は、ほんとに必要だったと、言わざるを得ないと思います。

ですから、この蘭学館を、本当に、今8万点のCCCのDVDレンタル店に様変わりしてい  
ますが、今こそ、蘭学館が元の姿に復活できるよう、市民の皆さんと力をあわせていき  
たい、そう考える1人であります。

私は、あと5分ですから、市長の政治姿勢の、3、4番、先ほど質問にありましたので、飛ばし、最後の、住民健診について、おたずねします。

市民の大きな願いは、健康で、長生きできるという、そういう日本の豊かな日本を作っていく、武雄市を作っていく中で、住民健診の役割は大きいと思います。

私自身も、15年前、住民健診をして、あるところにひっかかりまして、その資料を一昨年出しまして、一昨年の6月議会、休会せざるをえませんでした。今本当に元気に、心身共に元気です。

ですから、ここで、私が訴えたい、質問したいのは、市長におたずねしますが、この約7年半の間に、いろんなさまざまな、予算計上をされてきました。

あるいはテレビドラマの予算、レモングラスの予算、あるいは、今度のシンガポール事務所の開設の問題。

さまざま、タブレットの問題とか、ありますが、健康課に問い合わせますと、特定健診の対象者が8617人。

受診者率2712名、受診率は31.5%。

20～39歳、その対象者数が、1552人。

合わせますと、1万169人、受信者数が、2947名。

合わせますと、トータルで、29%の受診率であります。

これ平成24年の結果です。

私はこの際、ほんとに多くの人達が、この健診で、無料で実施できるように、市として取り組むべきじゃないか、国の法律を作っても住民健診を、受診率を上げていく上で、本当に求められていると、考える一人です。

ですから、対象者が、1万と169名、かけ1000円すると、約1000万です。

予算計上中で取り組まれてきましたが、ほんとに、健診をして、健康を保つ、そういう制度を武雄市から発信しようじゃないですか。

その点について、市長の見解を求めます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／無料だからといって、行く、行かないんじゃないです。

家族のため、自分のためとか、そういうお金の問題じゃないんです、命ってのは。

それが法外に高かったら別ですけど、お金の問題じゃないので、しません。

それともう一つ、図書館のことで、いろいろ言われましたけど、あまりにも、ひどくて、いかがかと思imasuので、今度3月議会のときに楽しみにしたいと思います。

議長／26番 江原議員

江原議員／時間がきましたので、これで終わります。

ありがとうございます。

議長／以上で、26番 江原議員の質問を終了させていただきます。